

きゅうり

1ヶ所4
~5粒蒔
き



発芽後間引いて2本立
てに

畝間隔を2m

初夏からでも間に合う地這いキュウリ作り

初夏が最盛期でなりさがりのキュウリも、盛夏期に入ると急に勢いがなくなり、収穫終わりとなってしまいます。

この頃をねらって、7月上旬（関東南部以西では7月中旬まで）きゅうりの種を蒔いて、地這い作りをしてみませんか？

ちょうど玉ねぎやエンドウ、ソラマメなどが片付いて空いている畑の利用（昔は葉タバコの産地でその後作）としてローテーション良く、品薄期にとれるので、台所でも大変重宝します。

支柱を立てることなく、地面に這わせ、高温や乾燥の害を受けにくくして栽培する方法が良く、このような方法を地這栽培と呼んでいます。

【方法】品種は地這栽培用の余蔘、霜不知地這、青長地這、ときわ地這などが好適です。

前作が終わり次第、畑に図のような間隔をとって直蒔きします。早いほど秋までの収穫が長いので多収となります。

最終を7月中旬と考え、畑が間に合わなければポリ鉢にまいて17~18日ほど育苗してから畑に植え出すのが良法です。

種子は1ヶ所5~6粒まきして、本葉1~2の頃間引いて2本残し、そのまま栽培します。

本葉4~5枚で摘心し、3本の小づるを残してバランス良く配置します。株の周りにばらまいて追肥します。

アブラムシ、ベト病などの病害が広がらないよう留意します。

収穫は種まき後45日から始まり、10月上旬ぐらいまで。収量は春作の3分の1ぐらいですが、栽培の手数はあまりかかりません。

台風の被害を受けやすいのが最大の欠点。その時はいさぎよくあきらめるしかありません。



この後から出てくるつるは放任してよい。

